

令和5年度個別学力試験問題

小論文

(教育学部特別支援教育コース)

解答時間 60分

配点 100点

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された場所に横書きで記入してください。
4. 試験時間中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

突然ですが、ここで一つ質問です。どうすれば、教室でのいじめを「増やす」ことができると思いますか？ いったん本を閉じて、少しの間、ぜひ真剣に考えてみてください。

例えば、こういうのはどうでしょう。児童にストレスを与えていららさせる。先生が率先して特定の児童をいじる。小さなトラブルを見て見ぬふりをし、エスカレートするのを待つ。仲の良くない者同士でグループを組ませる。相談を受けても対処せずに放置する。

(中略)

いじめについて議論をする際、しばしば「どうせいじめを減らすなんて無理だ」という反応が見受けられます。しかし、「いじめを増やすなんて無理だ」と思う人は少ないのではないのでしょうか。実際、ワークショップなどでこうした質問を投げかけると、いじめを「増やす」ための、具体的に現実的なアイデアの数々が、参加者の中から出てきます。

いじめを「増やす」ことができるのであれば、「いじめの数は、条件によって増減する」ということが確認できます。そして、「いじめを増やす要因」について考える作業は、そのまま「どの環境を改善すればいじめを抑制できるのか」という発想につながります。

(中略)

いじめについてこれまでは、被害者と加害者の心理にばかり焦点が当たりがちでした。しかし、いじめなどの行為には、「本人の資質」と「環境要因」の双方が関わります。大人でも、のびのびとした環境ではにこやかに過ごせますが、ストレス下に置かれれば行動が変わることがあります。ニコニコ優しくなった人が、親となり、育児ストレスによって子どもに手をあげるようになってしまった、というのもその典型でしょう。

あるいは、この社会にはブラック企業もあればホワイト企業もある。ハラスメントが多い会社もあれば、少ない会社もある。大人の集団でも、人間同士の組み合わせや環境によって、人々の行動が変わります。会社がつぶれて貧困になった家庭で、父親が荒れだす。その時、周囲の人は、「あの人は、人が変わってしまった」と言います。しかし、その人の行動を変えたのは、環境の変化です。

人は環境で変わる。それは子どもだって同じこと。環境のあり方によって、いじめが増えたり減ったりするのです。

(出典：荻上チキ、『いじめを生む教室 子どもを守るために知っておきたいデータと知識』、PHP 研究所、2018年より抜粋)

問1 下線部のような発想につながるのはなぜか。また、このような発想をした場合、いじめを抑制するための具体的で現実的な方法にはどのようなものが考えられるか。本文を踏まえて200字以内(句読点を含む)で説明しなさい。

問2 障害のある子どもが充実した教育を受けるための「環境要因」についてあなたはどうか、自身の考えを400字以内(句読点を含む)で述べなさい。